2022年度 露地アスパラガス病害虫防除暦【春どりのみ】

安全･安心な農産物生産のために 防除･使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	散布量(ℓ)	対象病害虫	注　意　事　項
／	1	立茎開始３日前	アミスター20 フロアブル	50ml	前日	200	茎枯病、斑点病、褐斑病	**茎枯病の多発圃場は収穫打切後、全刈りを実施し、すぐに第１回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから５㎝以上の盛り土後、芽の高さが２～５㎝程度のときに２回目の薬剤散布。その後５日以内に３回目、４回目の薬剤を丁寧に散布する。** アミスター20 フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下(夕方･曇天時)では使用しない。③雨露等でアスパラがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない。
／	2	第１回散布後 ５日以内	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ベンレート水和剤	20ml 50g	前日	200	茎枯病、株腐病	
／	3	第２回散布後 ５日以内	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ダコニール１０００	20ml 100ml	前日	200	茎枯病、斑点病 褐斑病、疫病	
／	4	第３回散布後 ５日以内	展着剤(アビオンE) モスピラン顆粒水溶剤 ベンレート水和剤	100ml 25g 50g	前日 前日	200	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類、ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ ｶﾒﾑｼ類・茎枯病・株腐病	
／	／	特別散布 疫病対策	展着剤（アビオンE） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元を中心に散布する。
／	5	６月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) コルト顆粒水和剤 IC ボルドー66Ｄ	20ml 25g 2kg	前日 収穫 終了後	300	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ、ｶｽﾐｶﾒﾑｼ類 茎枯病	草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて７～8 月はアミノメリット特青 500 倍の葉面散布を行う。 （その場合展着剤不要）
／	6	７月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ダントツ水溶剤 シグナム WDG	20ml 25g 66g	前日 前日	300	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ、 ｶﾒﾑｼ類、ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・褐斑病・斑点病	
／	7	７月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) IC ボルドー66Ｄ	20ml 2kg	収穫 終了後	300	茎枯病	
／	特別散布　疫病対策		展着剤（アビオンE） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元を中心に散布する。
／	8	８月上旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) プレオフロアブル ※ジマンダイセン水和剤	20ml 100ml 200g	前日 収穫 終了後	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 茎枯病・斑点病・褐斑病	**※ジマンダイセン水和剤は露地栽培の収穫終了後の使用に限る** カスミカメ類の発生が多い場合は、ダントツ水溶剤（4,000 倍・前日まで・3 回以内）を散布する。
／	9	８月中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) IC ボルドー66Ｄ	20ml 2kg	収穫 終了後	300	茎枯病	
／	10	８月下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) モスピラン顆粒水溶剤 IC ボルドー66Ｄ	20ml 25g 2kg	前日 収穫 終了後	300	茎枯病・ｶﾒﾑｼ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	斑点病が発生している場合は、IC ボルドー66Ｄを代えて、ラリー水和剤（4000 倍・前日まで・2 回以内）を散布する。
「次年度の収量確保に向けて」9 月以降は薬剤散布と併せてメリット赤（500 倍希釈）を葉面散布（展着剤不要）する。								
／	11	９月上中旬	アミスター20 フロアブル ディアナ SC	50ml 40ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・ 褐斑病・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｱｻﾞﾐｳﾏ類・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ	薬害回避のため展着剤は入れない。 害虫の発生がない場合は、ディアナＳＣを省いてもよい
／	12	９月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) アディオン乳剤 IC ボルドー66D	20ml 50ml 2kg	前日 収穫 終了後	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 茎枯病	メリット赤を混用する場合は展着剤は不要。凝固する恐れがあるため、PK ゴーは ic ボルドーと混用しない。
／	13	１０月上中旬	展着剤（アビオンE） IC ボルドー66D	100ml 2kg	収穫 終了後	300	茎枯病	メリット赤を混用する場合も薬剤持続性を高めるため、展着剤アビオンＥは添加する。また、凝固する恐れがあるため PK ゴーは ic ボルドーと混用しない。

（注）　**１．バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。**

２．収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、登録に基づきウララ DF、アディオン乳剤を散布する。

３．散布間隔があく場合（収穫打切りの早い園地等）や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド 3000 の 2000 倍液を散布する。

４．　IC ボルドー66D と PK ゴーは混用しない。

５．PK ゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

露　地　・　夏　秋　ど　り　栽　培　の　防　除　暦　は　次　頁　へ

当防除暦の複製･コピーを禁止します

2022年度 露地アスパラガス病害虫防除暦【夏秋どり】

安全･安心な農産物生産のために 防除･使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	散布量(ℓ)	対象病害虫	注意事項
／	1	立茎開始３日前	アミスター20 フロアブル	50ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病	**茎枯病の多発圃場は収穫打切後、全刈りを実施し、すぐに第１回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから５cm以上の盛り土後、芽の高さが２～５cm 程度のときに２回目の薬剤散布。その後５日以内に３回目、４回目の薬剤を丁寧に散布する。** アミスター20 フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下（夕方･曇天時）では使用しない。③雨露等でアスパラがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない。
／	2	第１回散布後 ５日以内	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ベンレート水和剤	20ml 50g	前日	200	茎枯病・株腐病	
／	3	第２回散布後 ５日以内	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ダコニール１０００	20ml 100ml	前日	200	茎枯病・斑点病 褐斑病・疫病	
／	4	第３回散布後 ５日以内	展着剤(アビオンＥ) モスピラン顆粒水溶剤 ベンレート水和剤	100ml 25g 50g	前日 前日	200	ｺﾅｼﾞﾗﾐ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ ｶﾒﾑｼ類・茎枯病・株腐病	
／	／	特別散布 疫病対策	展着剤（アビオンＥ） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元を中心に散布する。
／	5	６月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) コルト顆粒水和剤 IC ボルドー66D	20ml 25g 1 kg	前日 －	300	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ、ｶｽﾐｶﾒﾑｼ類 茎枯病	収穫中の場合、IC ボルドー66D を代えて、コサイド 3000（2,000 倍）を散布する。
／	6	７月上旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) シグナム WDG	20ml 66g	前日	300	茎枯病・褐斑病・斑点病	草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて７～8 月はアミノメリット特青 500 倍の葉面散布を行う。 （その場合展着剤不要）
／	7	７月中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) コテツフロアブル コサイド３０００	20ml 50ml 50g	前日 前日	300	ﾊﾀﾞﾆ類・ﾖﾄｳﾑｼ・ ｵｵﾀﾊﾞｺｶ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・斑点病・褐斑病	
／	8	７月下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ダントツ水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	300	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ・ ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ・ ｶﾒﾑｼ類・茎枯病・株腐病	
／	特別散布　疫病対策		展着剤（アビオンＥ） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元を中心に散布する。
／	9	８月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) プレオフロアブル コサイド３０００	20ml 100ml 50g	前日 前日	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 茎枯病・斑点病・褐斑病	ダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤（1000 倍・前日まで・2 回以内）を散布する。
／	10	８月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ダコニール１０００ ディアナＳＣ	20ml 100ml 40ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｼﾞｭｳﾎｼｸﾋﾞｱﾅｶﾞﾊﾑｼ	斑点病が発生している場合は、ダコニール 1000 を代えて、ラリー水和剤（4000 倍・前日まで・2 回以内）を散布する。
「次年度の収量確保に向けて」9 月以降は薬剤散布と併せて PK ゴー（3,000 倍希釈）を葉面散布（展着剤必要）する。								
／	11	９月上中旬	アミスター20 フロアブル モスピラン顆粒水溶剤	50ml 25g	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 ｶﾒﾑｼ類 ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	薬害回避のため展着剤は入れない
／	12	９月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) プレオフロアブル ベンレート水和剤	20ml 100ml 50g	前日 前日	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 茎枯病・株腐病	
／	13	１０月上中旬	展着剤（アビオンＥ） IC ボルドー66D	100ml 2kg	収穫終了後	300	茎枯病	薬剤持続性を高めるため、展着剤アビオンＥを添加する。 オオタバコガの発生が多い場合はディアナ SC（2,500 倍・前日まで・2 回以内）を加用する。

（注）　**１．バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。**
２．収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、登録内容に基づきウララ DF、アディオン乳剤を散布する。
３．散布間隔があく場合（収穫打切りの早い園地等）や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド 3000 の 2000 倍液を散布する。
４．IC ボルドー66D に PK ゴーは混用しない。
５．PK ゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

当防除暦の複製･コピーを禁止します